



小さなむらの大きな挑戦！

福岡県豊前市
枝川内あじさい祭り実行委員会







福岡県の南東部、豊前市の岩屋地区にある枝川内集落は、戸数16戸、人口29人、高齢化率76%という中山間地にある小さな集落。毎年6月になると地元住民が植えたあじさいが見頃を迎える。法面や水田の畔、道沿いに咲くあじさいは、西洋あじさいを中心に、紫や青、ピンクなど1万6千株ものあじさいが色とりどりに染め、開花期間中は県内外から年間1万人を超える人々が訪れる。平成22年から開催し今年で16回目になる「枝川内あじさい祭り」（主催・枝川内あじさい祭り実行委員会）を訪れた。

枝川内集落の中央にある集会所では、期間中の土日に、住民手作りのお弁当やお菓子、地元の新鮮野菜などを販売している。スタッフからもぎたての杏を勧められるままにかじってみると甘酸っぱさに自然の恵みを感じる。この集会所は飲食店営業許可を取得した「枝川内茶屋あじさいの里」として不定期で営業しており、あじさい祭り期間中の木曜には、枝川内産のそば粉を使ったそば定食が提供され来場者に人気を呼んでいる。

あじさい祭りを運営するスタッフは地元住民と応援ボランティアの方々が担う。地元、枝川内集落の女性メンバーは「ここでのんびりして、美味しい空気を味わってもらえたらうれしい」と訪れる人を温かく迎える。また、女性ボランティアの2人は、枝川内集落のアットホームな雰囲気と居心地の良さから毎年参加しているという。来場者に声をかけてみると、福岡市から訪れた女性は「集落の風景の中にあじさいが自然と咲く姿に癒される」と話す。北九州市から訪れたご夫婦は「田んぼにいたるオタマジャクシを捕まえてカエルに育てるのも楽しみにしています」とひとときわ笑顔。

枝川内集落のむらづくりの歴史について、枝川内あじさい祭り実行委員会事務局長の奥本隆己さんに話を伺った。
高度成長期を経て昭和終わりごろ、集落の助け合いが失わ





れつつある状況に危機感を感じた住民が立ち上がり、平成3年、集落住民83人(当時)の交流活動を始めた。住民同士で集落の将来像について話し合いを重ね、共存共栄の生活を目指し、まずは「農業基盤整備事業」に取り組むことに。平成11年に事業に着手。10ヘクタールを1年という異例のスピードで整備を完了させ、農業の効率化と低コスト化を図るために集落営農組合も立ち上げた。ところが、整備事業により想定外に巨大な法面が出現。農村景観の悪化と法面の管理が新たな課題となった。

折しも、九州各地のむらづくりの先進地の視察に巡るなかで、佐賀県唐津市の「滝とあじさい」のコンセプトにヒントを得た。「開花期間の長いあじさいなら、観光にもつながるのでは」と、平成13年から「小さな村の大きな挑戦!日本一のアジサイランド」を掲げて法面にあじさいの植栽を開始。

「当初は、あじさいの管理を不安視する意見も飛び交った」と奥本さんは振り返る。あじさいの植栽や手入れには枝川内集落の住民に加えて、外部からのボランティア40~50人の協力が大きい。3月から草取りや蔦の刈り払い、6月初旬のあじさい祭り前の手入れ、7月の剪定と作業が続く。作業のあとには必ず集会所で昼食を一緒に取り、住民とボランティアの交流を大切にしている。

こうした植栽を続けるうちに見学客が年々増加し、祭りによる情報発信も視野に入れて、平成22年に地区住民手作りの第1回あじさい祭りを開催。現在では来場者が1万人を超えるイベントに成長し、近年はSNS等で枝川内を知った県外からの訪問者も増えている。また同時期にフォトコンテストも行い、今では県内外から70点以上の作品が寄せられ、新たな集客のきっかけにもなっている。

こうした多くの集客がありながらも「あじさい祭りの期間中も、全くといってよいほどゴミが出ない」と奥本さんは来場者の意識の高さに感心している。



この日は、あじさい祭りの期間中に開催される「森林セラピーあじさいツアー」にも同行した。このツアーは、豊前市森の案内人の会が主催し、(一社)豊前観光まちづくり協会が事務局を担当するもので、豊かな森林環境を歩き「心と体を癒す」体験プログラムが企画され、枝川内地区はその一つとなっている。この日のツアーは市内の三毛門公民館からの個別オーダーにより開催された。

雨のため、最初に室内でヨガを行い参加者たちは体をほぐしてから、雨に濡れた緑のなか、深呼吸しながら枝川内集落を歩く。昼食は、集会所において「あじさいの里」メンバーの地元的女性たちが早朝から準備した料理が振る舞われた。そば団子汁、おにぎり、地元の野菜を使ったたふきやしいたけの煮物、タケノコやエンドウ豆など、季節の山菜が並びどれも枝川内ならではの素朴な味わい。枝川内産のそば粉を使った手打ちそばに舌鼓を打つ。最後に、枝川内のあじさいとむらづくりの歴史について奥本さんの講演から学びの時間も持った。

高齢化と人口減少が進むなかでも、住民間のつながりを大切にしながら、外部との交流と受け入れを進めてきた枝川内のむらづくり。実行委員会会長の宇都宮さんは「できる間は続けて、お客さんが喜ぶようにあじさいの花を増やしていきたい」と話す。奥本さんは「あじさいの存在は集落住民に共通する心の拠りどころになっている。一緒に何かをやろうという思いが、あじさいのむらづくりを長年続けてこられた理由だと思う」と語る。

住民全体で手を取り合って育ててきたあじさいの花は、高齢化や過疎化にも負けない枝川内集落を今年も鮮やかに染める。

【連絡先】 枝川内あじさい祭り実行委員会

福岡県豊前市大字大河内 301-3 岩屋活性化センター内

メール: iwaya-kan@aroma.ocn.ne.jp